

部活動地域展開モデル事業「演劇ワークショップ」の開催について(募集) ～演劇を通して、舞台に立つことのすばらしさに触れてみませんか～

横手市教育委員会教育指導課

中学校部活動の地域移行（展開）は、少子化が進む中であって、これまでと同じ形式で部活動を継続することが難しくなる見通しであることから、部活動を学校の教育活動から、地域のスポーツ・文化芸術団体が行う活動に展開していくための環境整備を進めるものです。

将来にわたって子どもたちが充実したスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境を整備するために、学校部活動を地域と連携しながら実施したり、地域のスポーツ文化・芸術活動へ移行する取組を進めたりしています。

その一環として、部活動の地域展開及び持続可能な地域クラブ活動の構築に向けたモデル事業として、横手市内の中学生を対象とした「演劇ワークショップ」を開催します。次のように計画いたしましたので、演劇に興味のある生徒さんは、保護者の方と相談のうえ、申し込みください。

1 開催日時

	月 日	曜	時 間	内 容
第1回	令和7年7月19日	土	14:00～17:00	演技の基本的な事(発声練習)
第2回	令和7年7月26日	土	14:00～17:00	台本の基本的な読み方
第3回	令和7年7月30日	水	14:00～17:00	芝居の稽古・舞台演出
第4回	令和7年8月2日	土	14:00～17:00	芝居の稽古・舞台演出
第5回	令和7年8月9日	土	14:00～17:00	成果発表

※参加したい回を選択し、申し込んでください。

2 会 場 朝倉地区交流センター「あさくら館」 横手市朝倉町 6-38（☎35-2138）

3 内 容 発声や台本の読み方など演技の基本、芝居・演技の練習および舞台演出を体験し、最終日に演技・演出の成果を発表する

4 対 象 横手市内中学校1年生～3年生

5 指導者 劇団「かんじき」 代表：土谷 久男
・日本演出者協会員 ・秋田県演劇団体連盟 副理事

6 参加費 参加費無料、保険料実費（50円×参加回数）

7 申込み 保護者の了承を得て、「申込みフォーム」から申し込んでください。
申込フォーム⇒「<https://forms.gle/PEUP8e9ZngDmXvs97>」
下の二次元コードからも申し込みできます。
※令和7年7月17日（木）申込締め切り

8 連 絡 ・保護者の責任のもとで、会場への送迎をお願いします。見学は自由です。
・学校の学習活動や行事の日程と重複する場合は、そちらを優先してください。
・現在所属している部活動やクラブの練習日程と重複する場合は、顧問の先生やコーチに相談して参加を決めるようお願いいたします。
・参加にあたっての連絡は、登録いただくメールアドレス宛に行います。ご自宅で連絡内容を確認いただくことが考えられますので、ご自宅のPCやスマートフォン等で申し込んでください。

【お問合せ先】

横手市教育委員会教育指導部教育指導課
部活動地域展開コーディネーター 菅 雅 彦

〒013-8601 横手市条里一丁目1番64号
(横手市役所条里南庁舎) ☎0182-35-2123

申込フォーム



横手のチカラ

劇団かんじき 代表 土谷 久男さん

つちや ひさお／57歳／横手地域在住
・映画、ドラマへ出演(ザ・ラストショット、いのちの山河など)
・2016年 黒川小学校 開校記念ミュージカル 演出担当
・2016年～秋田県高校演劇 秋田県大会 審査員 など



笑いを追求し、人間の心の動きを表現

演劇の聖地、東京下北沢で全編秋田弁の芝居を行ったのが2018年12月。3日間延べ140人以上が来場し、会場が笑い感動に包まれた。代表を務める土谷久男さんが、『下北沢で自主公演を行う』という夢を叶えた瞬間だった。

芝居を続けてこれたのは 周囲の支えがあったからこそ

幼い頃から人を笑わせるのが好きで、クラスではひょうきん者だったという。高校卒業後に上京し就職。2年間、仕事をしながら下北沢で芝居をしていた。21歳のとき横手に戻り地元企業に就職するが演劇の道を諦めきれず、老舗劇団「横手演劇研究会(昭和22年創設)」に所属、「研究会にいた頃、芝居についてはもちろん劇団の運営についてもいろいろ学ばせてもらいました」と、当時を振り返る。退団後、2000年11月に横手市山内地域で「劇団かんじき」を旗揚げした。これまで芝居を続けてこれたのは、職場の人たちや家族の支えがあったからです。練習のために勤務時間も融通させてもらい、夜に稽古するもんだから子どもの寝顔しか見えない時期もあった。それでもやっぱり、芝居が好きだった。これはもう病気だよ(笑)。

演劇人として 自分のできることを

自主公演に向けた活動のほか、中学校へ出向いて演技や方言の指導なども行っている。「横手の演劇ファンを増やしたい、演劇人を育てたいという一心です。そのためには子どもたちに芝居を教えるのも必要ですが、まずは芝居を教える側、指導者の質を高めたいと思っています」。秋田弁を愛し、地元根ざした。おらほの劇団は、生身の人間が表現する演劇の熱を地域に届けるため尽力している。「またいつか下北沢で公演を行うよ」と土谷さん。未だその日に向け、今日もまた稽古で汗を流している。



東京下北沢公演「結婚の申し込み」の写真。写真中央が土谷さん。



写真上から、「いとこの家族」「めくらぶんど」山内公演の写真。
(劇団かんじき主な上演作品)
・チェーホフ原作 伊賀山三訳「結婚の申し込み」
・川村元夫作(若手ぶどう座)「めくらぶんど」
・堤 泰之作「誰が目にしみる」
その他オリジナル作品10作以上